

1973年、中東戦争をきっかけに（石油危機）が発生しました。



日本では、品不足への不安から、トイレットペーパーや洗剤の売り場に人々が殺到する騒動が起きます。

これにより、世界の経済は大きな打撃を受け、日本の（高度経済成長）も終わりました。



影響は大きかったものの、日本は合理化や省エネルギー化を進め、いち早く不況を乗り切り、安定成長の時期を迎えます。

1980年代後半からは、土地や（株式）の値段が急激に上昇する（バブル）経済となった。



しかし（バブル）経済は1991年に崩壊し、長期にわたる（平成）不況のもとで企業の倒産が増え、失業者が多くなった。



日本は経済や社会のしくみの見直し（構造改革）をせまられるようになりました。